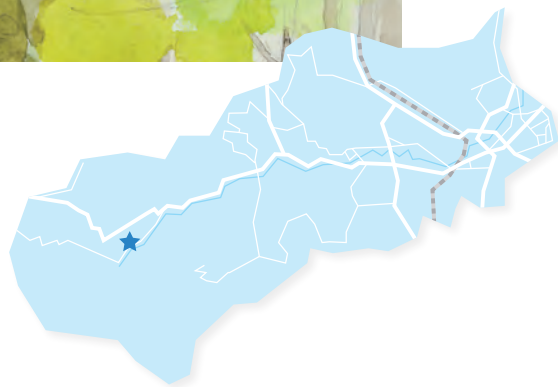




## 花盛りの山里（大字大野地内）

ここは木のむらキャンプ場から柵平に向かう道を、歩いて15分ほど登った所。まるで展望のために作られたかのように樹間が空いて見晴らしがよく、大野の中村と呼ばれる集落が目の高さに広がっている。いつか花の季節に訪れてみたいと思っていたが、今年タイミングよく満開のソメイヨシノと紅白の枝垂れ桃の共演に立ち会うことができた。スケッチしていると、背後にガサガサッという音がしたので振り向くと、つがいと思わしき狸が2匹走り抜けて行くのが見えた。



【編集後記】 出会いと別れの季節。進学や就職、転職でときがわの外へ出る方もいるだろう。『瀬を早み 岩にせかる 滝川の われても末に 逢はむとぞ思ふ』。百人一首第77番目で崇徳院が詠んだ歌。川の流りが岩にせき止められ二つに分かれてもいずれはまた一つになるように、今は離れ離れになってもいつかきっと巡り逢えるという意味だ。成長した姿で故郷ときがわ町へ戻ってくるのを楽しみにしている。未来で巡り逢おう——。【笠原】

